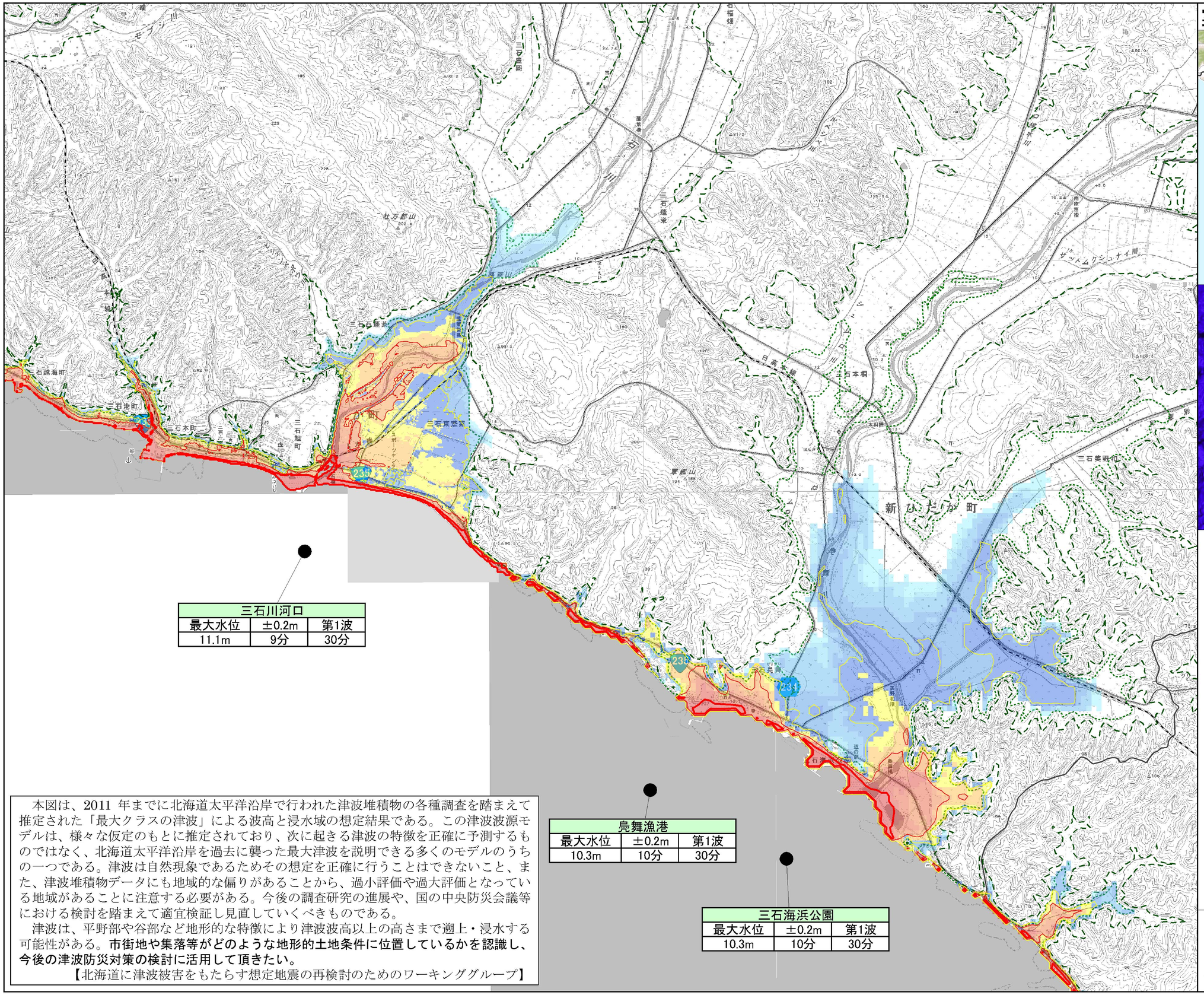
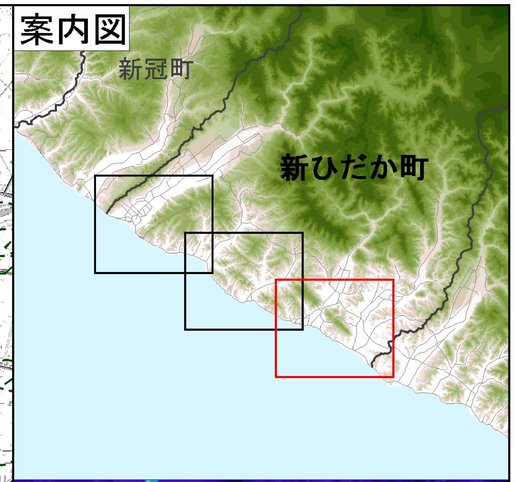
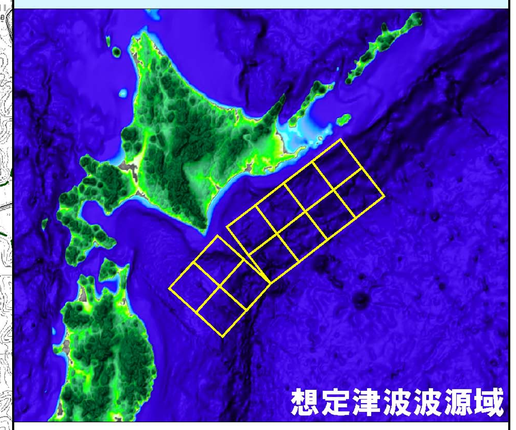
津波浸水予測図　市町村別図　新ひだか町（1／3）







凡　例

●津波浸水予測範囲（最大浸水深）（m）

- 1.0m未満
- 1.0m以上　2.0m未満
- 2.0m以上　3.0m未満
- 3.0m以上　4.0m未満
- 4.0m以上　5.0m未満
- 5.0m以上　6.0m未満
- 6.0m以上　7.0m未満
- 7.0m以上　8.0m未満
- 8.0m以上　9.0m未満
- 9.0m以上　10.0m未満
- 10m以上

●津波浸水深別コンター（m）

- 3m
- 6m
- 10m

標高10mライン

標高20mライン

●水深10m地点で予測される影響開始時間
・第1波到達時間および最大水位

地点名		
最大水位（m）	±0.2m	第1波
○.○m	○○分	○○分

±0.2m　：　影響開始時間
第1波　：　第1波のピーク時間

縮尺　1　：　35,000

500　0　500　1000　1500m

N

S

本図は、2011 年までに北海道太平洋沿岸で行われた津波堆積物の各種調査を踏まえて推定された「最大クラスの津波」による波高と浸水域の想定結果である。この津波波源モデルは、様々な仮定のもとに推定されており、次に起きる津波の特徴を正確に予測するものではなく、北海道太平洋沿岸を過去に襲った最大津波を説明できる多くのモデルのうちの一つである。津波は自然現象であるためその想定を正確に行うことはできないこと、また、津波堆積物データにも地域的な偏りがあることから、過小評価や過大評価となっている地域があることに注意する必要がある。今後の調査研究の進展や、国の中央防災会議等における検討を踏まえて適宜検証し見直していくべきものである。

津波は、平野部や谷部など地形的な特徴により津波波高以上の高さまで遡上・浸水する可能性がある。**市街地や集落等がどのような地形的土地条件に位置しているかを認識し、今後の津波防災対策の検討に活用して頂きたい。**

【北海道に津波被害をもたらす想定地震の再検討のためのワーキンググループ】

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号　H23情複、第892号）」

津波浸水予測図　市町村別図　新ひだか町（2／3）

本図は、2011 年までに北海道太平洋沿岸で行われた津波堆積物の各種調査を踏まえて推定された「最大クラスの津波」による波高と浸水域の想定結果である。この津波波源モデルは、様々な仮定のもとに推定されており、次に起きる津波の特徴を正確に予測するものではなく、北海道太平洋沿岸を過去に襲った最大津波を説明できる多くのモデルのうちの一つである。津波は自然現象であるためその想定を正確に行うことはできないこと、また、津波堆積物データにも地域的な偏りがあることから、過小評価や過大評価となっている地域があることに注意する必要がある。今後の調査研究の進展や、国の中央防災会議等における検討を踏まえて適宜検証し見直していくべきものである。

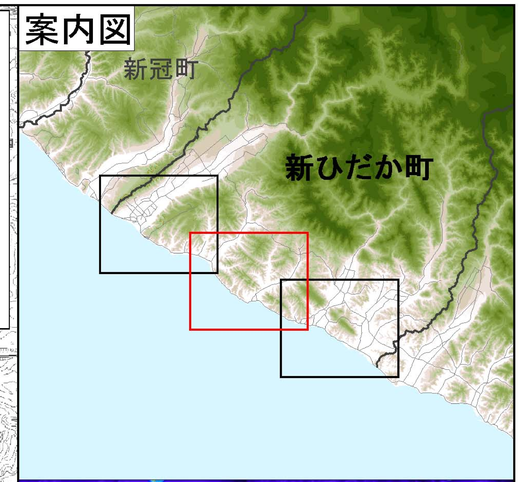
津波は、平野部や谷部など地形的な特徴により津波波高以上の高さまで遡上・浸水する可能性がある。**市街地や集落等がどのような地形的土地条件に位置しているかを認識し、今後の津波防災対策の検討に活用して頂きたい。**

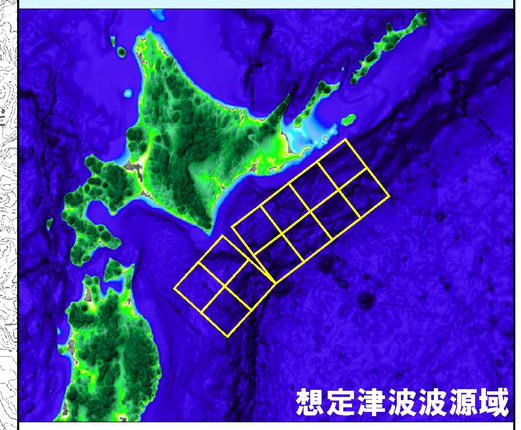
【北海道に津波被害をもたらす想定地震の再検討のためのワーキンググループ】

東静内		
最大水位	±0.2m	第1波
8.4m	11分	31分

春立		
最大水位	±0.2m	第1波
9.5m	9分	30分

案内図





凡　例

●津波浸水予測範囲（最大浸水深）（m）

- 1.0m未満
- 1.0m以上　2.0m未満
- 2.0m以上　3.0m未満
- 3.0m以上　4.0m未満
- 4.0m以上　5.0m未満
- 5.0m以上　6.0m未満
- 6.0m以上　7.0m未満
- 7.0m以上　8.0m未満
- 8.0m以上　9.0m未満
- 9.0m以上　10.0m未満
- 10m以上

●津波浸水深別コンター（m）

- 3m
- 6m
- 10m

標高10mライン

標高20mライン

●水深10m地点で予測される影響開始時間・第1波到達時間および最大水位

地点名		
最大水位（m）	±0.2m	第1波
○.○m	○○分	○○分

±0.2m　：　影響開始時間
第1波　：　第1波のピーク時間

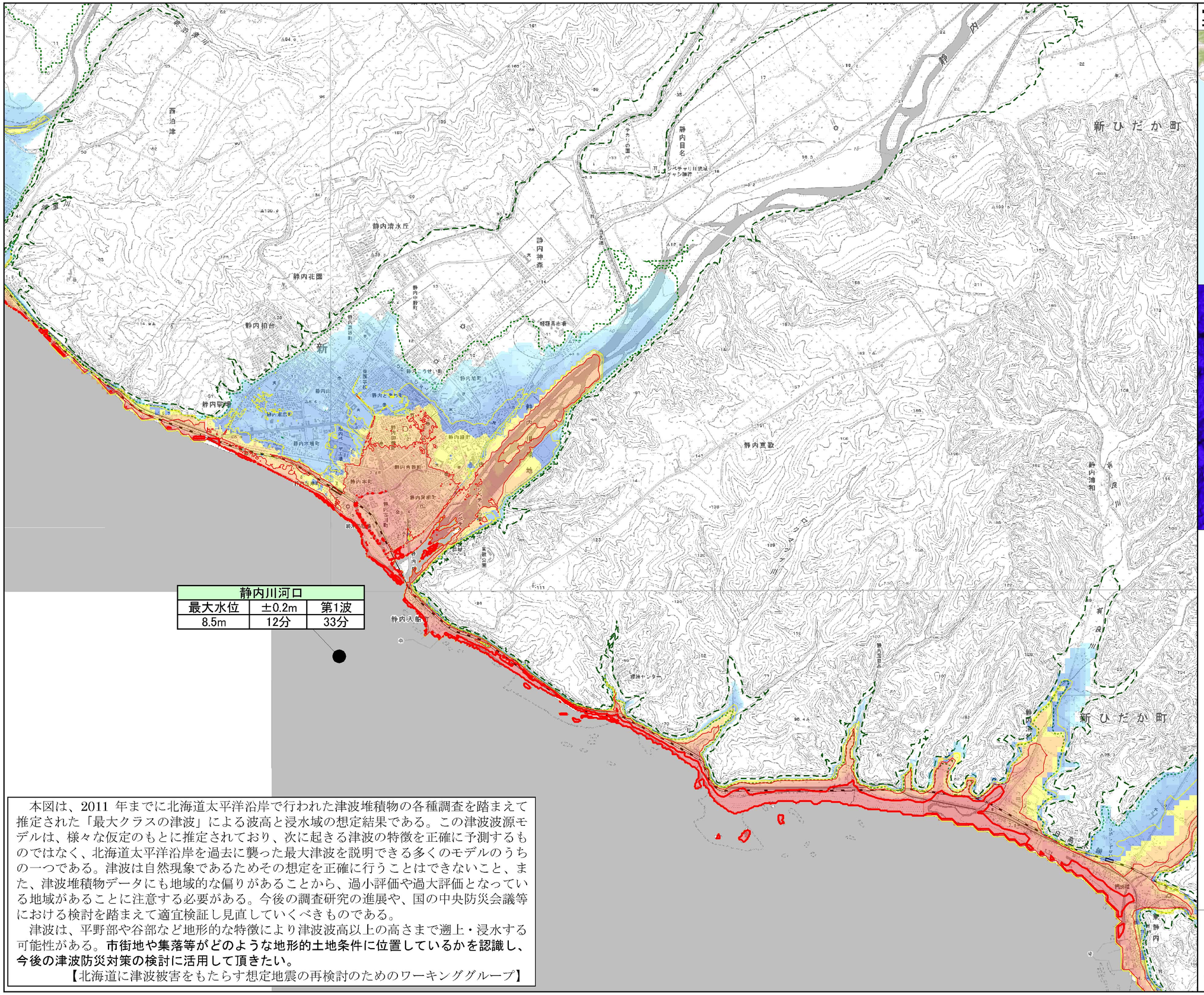
縮尺　1　：　35,000

500　0　500　1000　1500m

N
S

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号　H23情複、第892号）」

津波浸水予測図　市町村別図　新ひだか町（3／3）

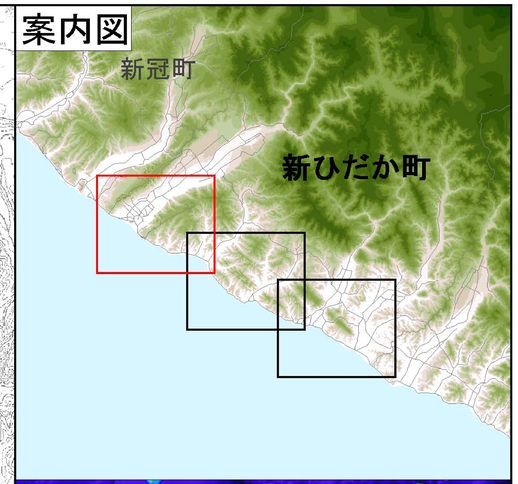


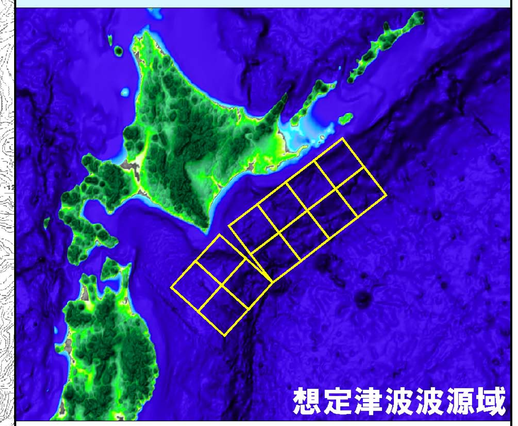
本図は、2011 年までに北海道太平洋沿岸で行われた津波堆積物の各種調査を踏まえて推定された「最大クラスの津波」による波高と浸水域の想定結果である。この津波波源モデルは、様々な仮定のもとに推定されており、次に起きる津波の特徴を正確に予測するものではなく、北海道太平洋沿岸を過去に襲った最大津波を説明できる多くのモデルのうちの一つである。津波は自然現象であるためその想定を正確に行うことはできないこと、また、津波堆積物データにも地域的な偏りがあることから、過小評価や過大評価となっている地域があることに注意する必要がある。今後の調査研究の進展や、国の中央防災会議等における検討を踏まえて適宜検証し見直していくべきものである。

津波は、平野部や谷部など地形的な特徴により津波波高以上の高さまで遡上・浸水する可能性がある。**市街地や集落等がどのような地形的土地条件に位置しているかを認識し、今後の津波防災対策の検討に活用して頂きたい。**

【北海道に津波被害をもたらす想定地震の再検討のためのワーキンググループ】

案内図





凡　例

●津波浸水予測範囲（最大浸水深）(m)

- 1.0m未満
- 1.0m以上　2.0m未満
- 2.0m以上　3.0m未満
- 3.0m以上　4.0m未満
- 4.0m以上　5.0m未満
- 5.0m以上　6.0m未満
- 6.0m以上　7.0m未満
- 7.0m以上　8.0m未満
- 8.0m以上　9.0m未満
- 9.0m以上　10.0m未満
- 10m以上

●津波浸水深別コンター(m)

- 3m
- 6m
- 10m

標高10mライン

標高20mライン

●水深10m地点で予測される影響開始時間・第1波到達時間および最大水位

地点名		
最大水位(m)	±0.2m	第1波
○.○m	○○分	○○分

±0.2m　：　影響開始時間
第1波　：　第1波のピーク時間

縮尺　1　：　35,000

500　0　500　1000　1500m

N
S

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号　H23情複、第892号）」